



お正月とお餅

令和七年（紀元二六八五年）乙巳きのとみの年頭に当り謹んで皇室の弥栄いひさかと氏子崇敬者の皆様の御平安をお祈りいたします。

さて、お正月の食べものといえば「餅」を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。日本では、お餅は神さまへの捧げ物や、縁起物として昔から人々に親しまれてきました。お正月においては鏡餅を飾る風習があります。鏡餅には、日本の主食である稲の収穫に感謝し、豊作を祈る意味が込められています。鏡開きの日は地域によってさまざまですが、このお餅を食べることで、一年間健康に生きられると考えられました。さらに、鏡開きのお餅を「歳玉」として分けていたことが現在のお年玉の起源ともされています。

また、お餅は平安時代に宮中で行われていた「歯固がための儀」にも用いられていました。「歯固がための儀」とは、お正月に健康を祈りお餅や大根などの硬いものを食べて歯を固める儀式のことです。年齢の「齢」に「齒」が使われているように、歯を丈夫にすることが長寿につながると考えられていたようです。この他にもお餅は、上棟祭じょうとうさいの際に撒かれたり、三月三日の菱餅や桜餅、五月五日の柏餅など、節目の慶事に用いられてきました。今年のお正月は、雑煮、焼き餅、ぜんざいなど、いろいろな食べ方を楽しみながら、新年のお祝いと一年間の健康をお祈りしましょう。

左義長・どんど焼き

一月十五日を中心に行われる火祭りの行事です。とんど、どんどん焼き、さいとう焼き、ぼっけんぎょう、三九郎焼きなどとも呼ばれます。期日や内容は地域によって差が見られますが、主に古いお札や正月飾りを持ち出して、お焚き上げします。神社で松焚祭や注連焼き神事などの名称で行う例や、年越しとんどと称して、大晦日に古い注連縄や新しいものと取り換えた神棚を集めて焼く例もみられます。



年神さま

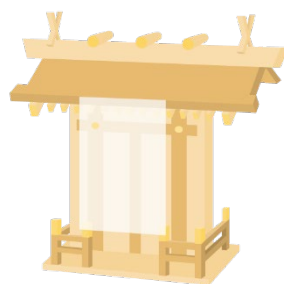
正月に訪れて新しい年をもたらす神さまで、正月様ともいわれ、私たちの祖先であるとも言われています。古くから日本では、祖先の霊は地域を見渡せる山にとどまり、正月やお盆の時季になると子孫のもとに降りてくると信じられてきました。常設の神棚とは別に年神棚などと呼ばれる棚を設けて、注連を飾り、鏡、餅、米、神酒、塩などを供えて神さまを迎えます。



忌中の場合のお正月の過ごし方

家庭にご不幸があった場合、一般的には五日を忌中として故人を偲び、おまつりを遠慮しますが、忌が明ければ、通常の生活に戻ります。忌の期間が正月をまたぐ場合は忌が明けてからお神札を受けましょう。

尚、親戚の方が亡くなられた場合は、お葬式を出したお家でないければ、通常のおまつりをして問題はないでしょう。



令和七年厄年表

男性		
前厄	本厄	後厄
24歳 (平成14年生)	25歳 (平成13年生)	26歳 (平成12年生)
41歳 (昭和60年生)	42歳 (昭和59年生)	43歳 (昭和58年生)
60歳 (昭和41年生)	61歳 (昭和40年生)	62歳 (昭和39年生)
女性		
前厄	本厄	後厄
18歳 (平成20年生)	19歳 (平成19年生)	20歳 (平成18年生)
32歳 (平成6年生)	33歳 (平成5年生)	34歳 (平成4年生)
36歳 (平成2年生)	37歳 (昭和64/平成元年生)	38歳 (昭和63年生)
60歳 (昭和41年生)	61歳 (昭和40年生)	62歳 (昭和39年生)

※ 地域によって違います。お住まいの地域の慣習に習うことをお勧め致します。
※ 数え年は、誕生日前の場合は2歳、誕生日を迎えている場合は、1歳を足して計算します。

神社からのお願い

感染症法の位置付けが変更されましたが、参拝者の中にはご高齢のかたや基礎疾患をお持ちのかたもいらっしゃるかと思いますので、引き続き職員がマスクを着用している神社もあります。ご理解下さいますようお願い致します。また、清々しい気持ちで神社にお参りして戴くために、皆様におかれましてはご協力いただきありがとうございます。



神社や神道について詳しくはこちらのQRコードからご覧ください。



三重県神社庁
ホームページ



三重県神社庁
Instagram



神社本庁
ホームページ



三重県神社庁
YouTube

三重県内各神社では、家内安全・商売繁盛・初宮参り・七五三詣・学業成就・合格祈願・交通安全・縁結祈願・子授祈願・安産祈願・厄祓い・病気平癒・地鎮祭・竣工祭・自動車清祓など様々なご祈願を受付けています。

いつもより神さまに近い場所で、願意を届けてみてはいかがでしょうか。

ご祈願についてのお問合せは、三重県内の各神社までお願い致します。